

令和8年第3回那珂市議会定例会に伴う記者会見（発言内容要旨）

日時：令和8年9月3日（木）午後1時30分開会

会場：那珂市役所（庁議室）

市側出席者：先崎光市長、玉川明副市長、加藤裕一企画部長、篠原広明総務部長、秘書広聴課職員

司会：小泉秘書広聴課長



1 開会・市長挨拶

【司会】

報道関係者への謝辞を述べ、令和8年第3回那珂市議会定例会に伴う市長記者会見を開会し、市側出席者及び事務局を紹介しました。

【市長】

報道機関の皆様には、日頃から市の施策やイベントを取り上げ、情報発信に協力いただいていることに感謝申し上げます。

7月に発生した熊本地震、先月の千葉県や福井県を中心とした記録的な豪雨により、家屋の倒壊、ライフラインの途絶、道路の冠水、住宅への浸水、河川の氾濫など、大きな被害が生じました。

犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

災害はいつ、どこでも起こり得るとの認識の下、市民の生命と暮らしを守るため、防災・危機管理体制の一層の強化に取り組めます。

熊本地震の被災地支援については、総務省の要請を受け、8月31日から市職員1名を派遣しました。

被災自治体の復旧に向けた支援に力を尽くしてもらいたと思います。

特定放射性廃棄物の最終処分地に関する文献調査につきましては、国から近隣自治体への概略説明があり、常陸大宮市に申し入れを行う旨の報告を受けています。

今後の国や近隣自治体の動向を注視し、市民生活への影響を見据えながら、情報収集に万全を期していきます。

【司会】

「那珂市長定例記者会見資料」、定例会「議案書」、「報道機関各社様」、「道の駅の整備について」、藤森照信氏講演会案内チラシの5点を確認し、提出予定案件等と市政に関する告知事項を市長が説明し、質疑は一括して受ける旨を案内しました。

2 令和8年第3回那珂市議会定例会に提出予定の案件等について

【市長】令和8年第3回那珂市議会定例会の会期は、9月7日（月）から9月29日（火）までの23日間を予定しています。

提出案件は、報告5件、条例の一部改正4件、令和8年度補正予算1件、その他4件の計14件です。

今回は議案49号一般会計補正予算（第3号）についての説明となります。

○議案第49号 一般会計補正予算（第3号）についての説明

【市長】歳入歳出それぞれ2億8,188万3千円を追加し、予算総額は279億2,214万7千円になります。

議会費は、議員勉強会開催に係る負担金の増額となります。

総務費は、熊本地震の被災自治体への応援職員派遣経費等の計上で、民生費は国の基準額改定に伴う民間学童保育所への補助金等の増、農林水産業費は県補助金の交付決定に伴う排水路整備の工事請負費等の増額によるものです。

商工費は、道の駅整備事業において、国補助金の交付決定に伴う道の駅の外構工事請負費の計上となります。

諸支出金は、前年度の精算等に伴う国県負担金等返納金の増額によるものです。

このほか、4月の定期異動に伴い、総務費・民生費・教育費の職員人件費を増額します。

歳入については、中学校給食費を5か月間免除することに伴い、学校給食費徴収金を減額します。また、額の確定により普通地方交付税を増額し、繰入金を減額するほか、歳出補正との関連において国庫支出金、県支出金、繰越金、諸収入、市債を増額します。

○市立中学校の学校給食費免除の説明

【市長】物価高騰の影響を受ける子育て世帯の負担軽減のため、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、給食提供を受ける市立中学校の生徒の給食費を免除します。

対象期間は令和8年11月から令和9年3月までの5か月間です。

生徒1人当たり月額4,700円、最大2万3,500円の負担軽減となります。

対象生徒は令和8年7月時点で1,164人を見込み、免除額の総額は2,631万6千円です。

安心して子育てができる環境づくりにつなげたいと思います。

2 令和8年第3回那珂市議会定例会に提出予定の案件等の説明は以上となります。

3 市政に関する告知事項について

「いい那珂フェスティバル2026秋まつり」ほか14件を市長から説明しました。

①いい那珂フェスティバル2026秋まつり

【市長】第1部は8月22日（土）にひまわり畑の公開と花火大会を開催し、多くの方の来場がありました。

第2部の秋まつりは10月25日（日）に開催します。

ハロウィン仮装コンテスト、シン・いばらきメシ総選挙にエントリーする市のグルメ、お子様向けの催し、ステージイベントなどを予定しています。

食と交流を通じて市の魅力を再発見していただきたいと思います。

②月見の会

【市長】9月27日（日）、那珂市曲がり屋及び一の関ため池親水公園で、「和」をテーマに開催します。

「那珂市曲がり屋から望む月」は日本百名月認定登録地第59号に認定されています。

模擬店、装飾・ライトアップ、団子の無料配布、野点、琴や篠笛の生演奏などを予定しています。

③建築家・藤森照信氏講演会

【市長】令和10年秋の開業を目指す道の駅建物の設計監修を担う藤森照信氏を招き、10月31日（土）に講演会を開催します。

「自然を生かした建築と道の駅」をテーマに、これまでの活動、市の道の駅の設計に至った経緯、デザインに込めた思いなどを直接お話しいただきます。

市民に施設の魅力を知っていただき、開業への期待を高めたいと思っております。

④シン・いばらきメシ総選挙2026

【市長】10月10日（土）から12日（月祝）まで、茨城県三の丸庁舎内で開催される大会に2部門で出店します。

一般料理部門では、那珂市産小麦のうどんとひまわりオイルを使用し、「ビリヤニ大澤」監修のスパイスと和だしを融合した「スパイスカレーうどん」を出品し、スイーツ部門では、大成女子高等学校家政科の生徒が那珂市産かぼちゃ・エディブルフラワー、城里町産古内茶を使用して考案した「花咲く至福のティラミス」を出品します。

⑤第22回那珂市文化祭

【市長】11月7日（土）・8日（日）、那珂市文化協会主催で開催します。

中央公民館では水墨画、書道、写真、いけ花、着付などの展示を、総合センターらぽーるでは合唱、吹奏楽、太鼓、日本舞踊などの発表を行います。

体験講座や水戸農業高等学校生徒によるお茶会、2会場を巡るスタンプラリーも予定しています。

⑥公民館まつり2026・那珂市障がい者フェスティバル

【市長】11月21日（土）・22日（日）、中央公民館で開催します。

利用団体による作品展示、ステージ発表、体験講座を実施します。

障がい者フェスティバルを同時開催し、障がいのある方が制作した作品の展示、物品販売、ステージ発表などを通じて交流を深めます。

⑦第20回図書館まつり

【市長】10月24日（土）・25日（日）に市立図書館で開催します。

おはなしワンダーランド、朗読会、ハロウィン万華鏡作り、写真立て作りなどを実施します。

25日には「ドラえもん」の野比のび太役で知られる声優・大原めぐみ氏を迎え、トークショーと朗読会を開催します。

⑧いい那珂そだちマッチングフェア

【市長】11月26日（木）、近隣市町村のシェフやバイヤー等を招き、生産現場を巡るバスツアーと商談会を実施します。

生産者のこだわりや品質への理解を深め、市産農畜産物の試食を通じ、新たな取引・商品開発、ブランドの認知度向上と販路拡大につなげます。

⑨額田城跡特別講座

【市長】4回に分けて開催します。

東海村の石神城跡、つくば市の小田城跡の保存・活用を座学で学び、南酒出城跡を現地見学します。

最後に額田城跡の魅力や活用をテーマとするワークショップを実施し、国指定史跡を目指す額田城跡の保存・活用に向けた機運を醸成します。

⑩青少年育成のつどい

【市長】11月28日（土）に開催します。

従来の「家庭の日」図画・作文発表会及び表彰式典と、「青少年の主張」発表大会及び表彰式典を統合します。

子どもたちの多様な表現やメッセージを発信し、家庭・学校・地域が一体となって成長を支える機運を高めます。

⑪いい那珂そだち「新産品開発求評会」

【市長】9月29日（火）に開催します。

道の駅開業を見据え、代表する土産品や飲食メニューの開発を目指す「うまいもんプロジェクト」を令和5年度から進めています。

今回の求評会では、一般産品部門とスイーツ部門で審査を行います。

専門家の評価や助言を受け、商品の磨き上げと商品化を進めます。

⑫茨城県自治会連合会講演会兼協働のまちづくり推進フォーラム

【市長】10月24日（土）、茨城県自治会連合会講演会と合同開催します。

常総市中妻町、根新田町内会の須賀英雄氏を講師に迎え、「災害犠牲者ゼロを目指した防災まちづくり」をテーマに講演いただきます。

住民主体の防災活動や地域のつながりづくりを学びます。

⑬多文化共生セミナー

【市長】那珂市国際交流協会が10月17日（土）に開催します。

ウェールズ出身のパリー氏を講師に迎え、食文化、言語、暮らしの風習、イギリスと日本の共通点などを学びます。

講演後には講師を囲むお茶会を行い、多文化共生への理解と交流を深めます。

⑭子育てフェスタ2026

【市長】地域子育て支援センター「つぼみ」で11月7日（土）に開催します。

ゲーム、制作体験、職員手作りおもちゃの販売、利用者によるフリーマーケット、学生の生演奏・読み聞かせ、ボランティアによる人形劇などを予定しています。

子育て世代の交流や地域とのつながりを広げます。

⑮令和8年度那珂市表彰式典

【市長】市勢の伸展や市民福祉の向上に尽力され方などの功績をたたえ開催します。

現時点で68名6団体を表彰する予定です。このうち特別奨励表彰では、国際大会や全国大会への出場など、各分野で顕著に活躍した6名を顕彰します。

式典はどなたでも観覧できるため、多くの方に受賞者の功績をたたえ、ともに祝っていただきたいと思います。

3 市政に関する告知事項についての説明は以上となります。

【2 提出予定案件等、3 市政告知事項に関する質疑応答】

○議案第47号 いじめに関する委員会等の委員報酬について

【記者】議案第47号の条例改正について、いじめに関する委員会等に参加する方の報酬を引き上げるものと理解している。重大な事案への対応を踏まえ、報酬改定は必要と思うが、県内外に先行事例はあるか。改定額は何を参考にしたのか。

【市側回答者／加藤裕一企画部長】市独自の条例です。

委員会に出席する弁護士の報酬について、茨城県弁護士会から申し入れがあり、日額で2万5,000円相当が妥当ではないかということで今回改定します。

水戸市などでも実施しており、それに合わせた形で報酬を改定しました。

【記者】那珂市に限らず、自治体に対して弁護士会から広く見直しの申し入れがあったとの理解でよいか。

【市側回答者／加藤裕一企画部長】そのとおりです。

○災害を受けた補正予算・被災地支援について

【記者】熊本地震や千葉県の高雨等を受けて、急遽、補正予算に取り込んだ対策はあるか。

【市側回答者／篠原広明総務部長】被災地への応援職員派遣事業として、補正額は約761万3千円です。主に職員人件費、移動費、航空運賃、宿泊費等を計上しました。

現在派遣している職員に係る経費は予備費から充用しており、今後の派遣要請にも対応できるように準備したものです。

【記者】人件費以外に、例えばアンダーパス対策など、ハード面で追加した対策はあるか。

【市側回答者／篠原広明総務部長】特にはありません。

【市側回答者／市長】義援金等の募集のほか、ふるさと納税の代理寄付の仕組みを利用し、熊本県内の被災3自治体への寄付受付を行っています。現在も継続しています。

千葉県の高雨については、現時点では実施しておりません。

【市側回答者／加藤裕一企画部長】7月30日の熊本地震で被災した八代市、宇城市及び氷川町の復旧支援のため、市のふるさとづくり寄付を活用した災害支援代理寄付を受け付けています。

被災していない自治体が、被災自治体に代わり寄付受付や事務処理を行う仕組みです。受付は12月31日までの予定です。

8月31日時点で、寄付額は八代市39万5,000円、宇城市44万3,000円、氷川町50万円、計133万8,000円になります。

○常陸大宮市への文献調査申し入れについて

【記者】核のごみの最終処分場選定に関し、常陸大宮市長と話したり、周辺自治体とやり取りしたりした事実があれば、その内容を教えてほしい。

【市長】経済産業省から直接説明があったことは、冒頭に述べたとおりである。

周辺自治体、特に首長から連絡をいただいたことはありません。

それぞれ報道されている情報等を共有している段階です。

4 那珂市長3期目への抱負について

【市長】 来年2月の2期目の任期満了に伴い、3期目を目指し立候補します。

その抱負について報告します。

町議会議員、市議会議員、県議会議員としての経験から学んだことを地元の発展に生かしたいとの思いで市長に就任し、7年半が過ぎました。

那珂市は平坦な土地が多く、水戸市やひたちなか市に隣接し、医療・教育・商業施設も身近にあり、住みやすい地域です。

那珂インターチェンジの開設以来、その立地を生かした地域振興が検討されてきましたが、実現に至らなかった計画もありました。

これまでは恵まれた立地から人口減少は比較的緩やかでしたが、少子高齢化が進む中、従来と同等、あるいはそれ以上の住民サービスを維持するには、安定した財政基盤が重要になります。

地域産業の振興を通じた財政基盤づくりが地方政治の大きな課題です。

「住みやすさプラス活力あふれるまち」を掲げ、今まで取り組んでまいりました。

・ 那珂インターチェンジ周辺開発と道の駅

【市長】 那珂インターチェンジ周辺は、市の将来を左右する発展の可能性を持つ地域であります。

道の駅は、将来を見据えた周辺開発の突破口の第1弾です。

道の駅を成功させ、周辺ににぎわいを生み出し、10年後、20年後、30年後の那珂市につなげたいと思います。

全国に1,200以上の道の駅がある中で後発となりますが、研究できる事例なども多いです。

他にはない魅力を備え、その施設を目的に来訪していただける道の駅にしたいと考えています。

・ 道の駅の特徴と役割

【市長】 第1としては建築デザインです。藤森照信氏を招聘できたことは大きな成果と考えています。

4棟を回廊でつなぐ分棟形式とし、広場や緑地、大きな駐車場を設け、国産材・県産材を用いた木造で、焼杉や漆喰による黒と白の建物とすることにより、地域の田園風景に調和します。

写真を撮りたくなる場所、若い人のデートスポットになることも期待しています。

第2として、直売所と物販です。

地場産品をPRし、購入していただくことを通じ地場産業を振興することで、農家だけでなく、プリンや菓子、ケーキなどを加工・販売する商業者にも活躍していただきたい。

耕作放棄地、後継者不足、高齢化など農業の課題がある中、「良いものを作れば売れる」と実証されれば、作付面積の拡大や後継者の呼び戻しにもつながります。

市の基幹産業である農業を活性化するきっかけにもしたいと考えています。

友好都市である秋田県横手市、台湾の台南市とのつながりも生かし、台湾コーナーなどを設けることも特徴的な場所になると思っております。

第3としては子育て支援機能です。

雨や雪の日でも遊べる全天候型の施設と、晴れた日に遊べる屋外のプレイゾーンを整備します。

子どもの遊び場として、地域で子どもを育てる場所にしたいと考えています。

第4は防災機能です。

高速道路に隣接した広い敷地を生かし、大規模災害時の避難や広域的な支援活動の拠点、救援部隊・物資の集積場所として機能することが出来ます。

ヘリの発着スペースも含め、地域の安全・安心に貢献する施設になっていくと思います。

・地域経済・移住定住・県北との連携

【市長】道の駅を中心に地場産業と地域経済を強くし、交流人口・関係人口を増やして那珂市のファンをつくり、移住定住につなげたい。

市民が地元を誇りを持つシビックプライドの醸成や雇用の創出により、若者が市に残る、市に戻るための受け皿にもしたい。

開業後に初めて分かる課題もあります。

全国が発展している道の駅は、整備して終わりではなく、常に進化しています。

本市も課題を解決しながら進化を続け、持続可能な道の駅にしたいと思っています。

那珂市は県北の玄関口であり、那珂インターチェンジ、国道118号、349号、JR水郡線、久慈川、那珂川などを通じて県北とつながっています。

県北と一体となって発展してきた歴史を踏まえ、県北の玄関口としての役割を道の駅にも担わせたいと考えています。

・那珂市に吹く「3つの風」

【市長】1つ目は、昨年秋にオープンした県の植物園「ザ・ボタニカルリゾート林音」です。

県外からも多く来場し、宿泊機能も利用され、入場は無料であることから、市民の散歩や癒やしの場にもなっています。

那珂市の令和5年の年間観光入込客数は約18万人で県内37位でしたが、植物園では半年間の有料入園者だけで18万人を超えたと聞いています。

市の観光への影響は大きいと思います。

【市長】2つ目は水戸ホーリーホックです。

J1で頑張る姿に感動を与えてもらっています。

ホームスタジアムが那珂市向山にあり、市の名前の露出や知名度向上につながっています。

開幕に合わせ500本ののぼり旗を沿道に設置しました。

ホームタウンの取組に協力するとともに、ホームスタジアムの立地自治体としてできる支援を続けたいと考えます。

【市長】 3つ目は道の駅です。

インターチェンジ周辺に働く場所とにぎわいを生み出し、経済効果を高めます。

準備している仕掛けに加え、想像していなかったような相乗効果が生まれることも期待しています。

他地域から子どもを呼び込むだけでなく、地域で子どもが生まれ、育つまちにしたいと思っています。

・ 3期目への決意

【市長】 7年半、道路などのインフラ整備を進めてきました。

那珂市は立地に恵まれている一方、整備が遅れていた面があり、その可能性を高めるためにいろいろと取り組んできました。

教育や福祉も含め、まだ取り組むべきことが多いです。

道の駅も含めて道半ばであり、職員、市民とともに思いを実現するため、3期目を目指します。

詳しい政策は、今後政策集としてまとめ、改めてお示ししたいと思います。

【那珂市長 3期目への抱負に関する質疑応答】

○公約・2期7年半の実績について

【記者】 道の駅を中心とする地域産業の振興のほか、子育て支援、高齢者福祉など、どのような公約を考えているか。また、2期の実績について、インフラ以外の分野も含め、具体的な実績や評価を聞きたい。

【市長】 3期目の大きな目標は、市の財政の安定化です。

道の駅もそのための手段の一つであり、農業を含む産業振興に重点的に取り組みます。

教育や福祉も財源がなければ実施できず、子育て支援でも実施したい施策は多いですが、その裏付けが必要になります。

何でも無償化すればよいとは思いませんが、子育て世帯が苦しんでいる現実もあります。

中学校給食費の免除も負担を少しでも和らげるために行います。

行政が支援できることはさらに取り組みたいと考えています。

高齢者福祉にも不足しているものがあり、施設や制度への支援を手厚くするため、財源の確保もしていきたいと考えています。

道路整備も道半ばです。菅谷地区では道路が1本できるだけで、住宅の立地が進み、子どもが増えます。

住環境の整備に力を入れる一方、市街地や駅周辺だけでなく、周辺地域に住む人も生甲斐を持って暮らせるよう、バランスを取って対応したいと思っています。

政策集はこれから作成をしますが、7年半の取組を検証し、継続するもの、充実させるもの、見直すものを取捨選択してまとめたいと思っています。

現時点で具体性に欠ける点は申し訳ありません。

○道路・市街地整備の具体例について

【記者】道路インフラ整備の実績として、具体的にどの路線を挙げられるか。

【市長】身近な生活道路と大きな幹線道路の両方を整備しています。

国道１１８号の４車線化・バイパス整備は、市長就任以来力を入れ、国・県の協力を得ながら進めてきました。

令和１０年の道の駅開業に合わせ、道の駅につながる区間まで４車線化が進むことを希望していますが、国・県の事業であり、市の希望だけで決められるものではありません。

ひたちなか港・東海地区と県北内陸部を結ぶ茨城北部幹線道路にも、県議時代から周辺の首長や県議とともに取り組んできました。

沿岸部の活力を内陸に取り込み、例えば大子町から４０分で通勤できるようになれば、地域内に工場がなくても若者が住み続けられます。実現には長期間を要するが、引き続き整備を進めたいと考えています。

市内においても、木崎地区の基盤整備事業と併せた道路計画や、水郡線をアンダーパスで通過する計画、用地買収等を進めています。

【市長】バードラインの４車線化も大きな事業です。

道の駅の開業による交通量増加に対応し、国道１１８号、道の駅、インターチェンジを結ぶ道路として整備を進めています。道の駅開業時には重要な部分を４車線化したいと考えています。

市街地では、人口の多くが集中する菅谷地区の街路整備を進めています。

都市計画道路３路線について、地権者の世代交代や環境の変化も踏まえ、職員が用地買収等に取り組んできました。

菅谷地区は店舗、病院、学校がそろい、道路が整備されれば住宅立地につながるため、その可能性を生かしたいと思っています。

令和１０年頃を一つの目標としていましたが、物価高騰等で遅れもあり、引き続き努力して行きたいと思います。

○立候補時の所属について

【記者】今回の出馬表明は、無所属で立候補するということでしょうか。

【市長】おっしゃるとおりです。

5 その他・閉会

【司会】その他、市からの連絡事項は特にない旨を伝え、出席への謝辞とともに記者会見を終了しました。